

白鳥追跡大作戦

並木達郎

366-0052 深谷市上柴町西5丁目11番地1(上柴西小学校3年)

1. 研究の動機

3年生の秋から白鳥の観察を始め、昨年・一昨年と白鳥の研究を発表しました。また、観察しながら撮影した写真が、埼玉県や深谷市のコンテストで入賞し、知事さんや市長さんから直接表彰を受け、新聞にも載せていただきました。

今年は、過去3年間の総まとめとして、県内外の飛来地を取材し、その共通点から飛来地の条件を探りたいと思います。また、白鳥の一日を追跡し、白鳥の様々な表情を紹介します。



2. 研究のめあて

- ・訪問した飛来地について
- ・白鳥の一日について
- ・白鳥の特徴について

3. 研究の方法

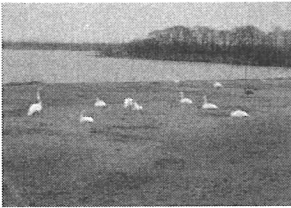
- (1)用意したもの：デジタル一眼レフカメラ(望遠レンズ)、三脚、温度計、双眼鏡、筆記用具。
- (2)研究方法：週2回位飛来地へ行き、写真を撮り、観察記録を書き、白鳥おじさん(飛来地の監視員)や地元の写真家の人達に取材する。帰宅後、観察ノートに

Tatsuro NAMIKI Observations on wintering areas and daily activities.

まとめる。

県内外の飛来地を実際に取材し、比較の資料とする。

4. 訪問した飛来地について



1. 北海道苫小牧市



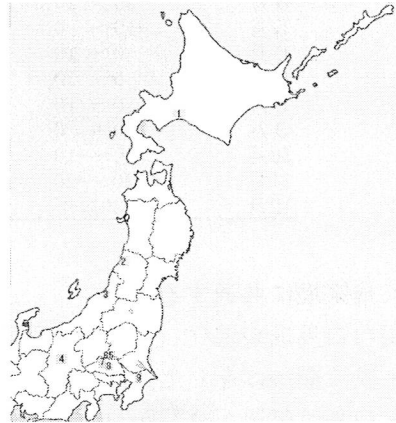
2. 山形県酒田市



3. 新潟県阿賀野市



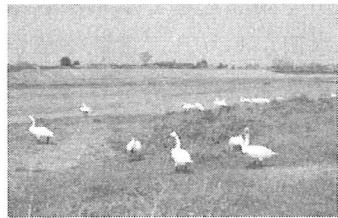
4. 長野県安曇野市



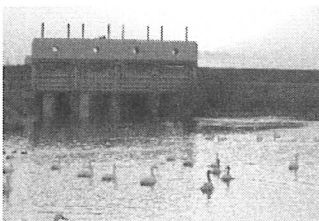
5. 群馬館林市



6. 群馬県邑楽町



7. 埼玉県深谷市

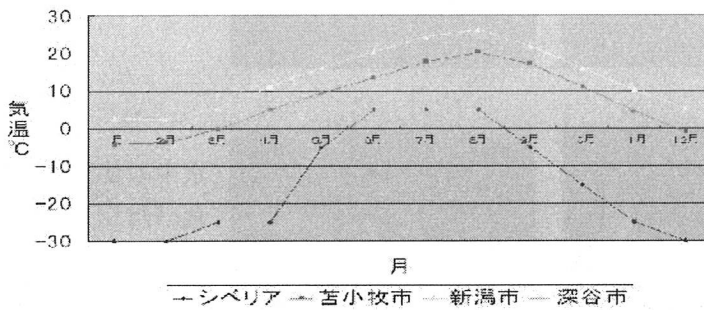


8. 埼玉県川島町



9. 千葉県印西市

主な飛来地(生息地)の平均気温



主な飛来地(生息地)の月別平均気温(°C)の比較(気象庁のHPより)

	シベリア (ロシア)	苫小牧市 (北海道)	新潟市 (新潟県)	深谷市 (埼玉県)
1月	-30以下	-4.1	2.6	3.7
2月	-30以下	-3.7	2.5	4.3
3月	-30~-20	-0.2	5.4	7.5
4月	-30~-20	4.9	11.2	13.2
5月	-10~ 0	9.4	16.1	17.9
6月	0~ 10	13.4	20.4	21.4
7月	0~ 10	17.7	24.5	24.9
8月	0~ 10	20.3	26.2	26.4
9月	-10~ 0	17.1	22.0	22.3
10月	-20~-10	11.1	16.0	16.6
11月	-30~-20	4.5	10.2	10.9
12月	-30以下	-1.0	5.3	6.0

＜飛来地に共通する事項＞

主な白鳥飛来地(生息地)の月別平均気温の比較(気象庁のHPより)

- ・表で網かけをした月は白鳥が飛来(生息)している時期です。
- ・白鳥は気温が0℃から10℃の地域を求めて移動していることがわかります。

飛来地では

- 川や湖など水と水草が豊富である。
- 水田があり、二番穂や草が豊富である。
- 鳥獣保護区である(狩猟禁止区域)。

5. 白鳥の一日

早朝(5~7)



飛来地の白鳥は、夜明け前に、目覚め、餌を探しに飛び立ちます。

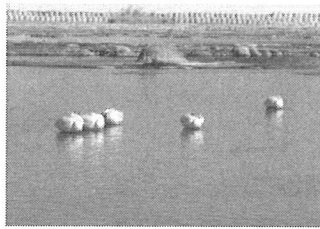
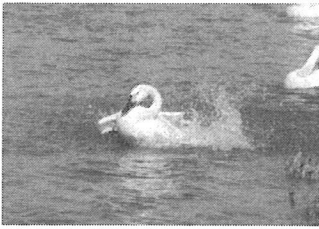
日中



水田の二番穂やむ図草を食べたり、岸の草を食べたり、水浴びをして過ごします。

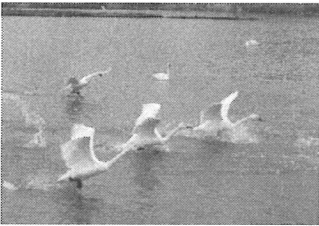


水中の藻を食べたり、岸の草を食べたり、水浴びをして過ごします。



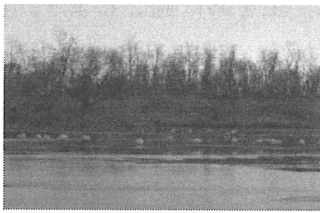
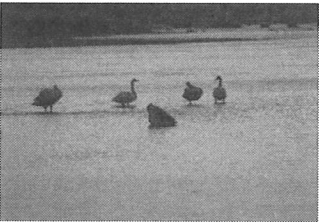
羽の中に首を入れて、丸くなって寝ていることもあります。

夕方(16～18時)



夕方になると飛来地に戻ってきます。

夜



夜は川の中州や池の島など、獣が入ってこない場所で寝ます。

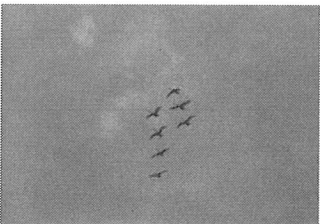
<初飛来は早朝>



毎年の初飛来は早朝の時間帯に先遣隊と思われる2羽が飛来し、状況確認後仲間を迎えに、戻ります。

昨年の初飛来は平成21年10月23日

<北帰行は夕方から夜>



北帰行は夕方から夜にかけて出発します。群れが一斉に飛び立ち、旋回しながら上昇する姿は迫力があります。昨期の北帰行は平成22年4月13日。

6. 白鳥の特徴

(1) 渡り鳥

白鳥(コハクチョウ)は、シベリア(ロシア)のコリマ川河口付近がふるさとです。

そこから4,000kmの旅をして深谷にやってきます。コハクチョウの卵は6月上旬に生まれ、30日でヒナになり、生後2か月で十分に飛べるようになり各越冬地に向けて出発します。

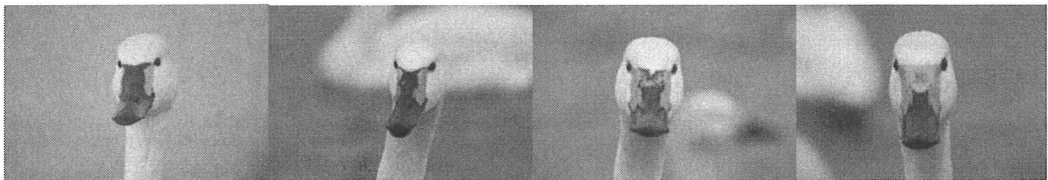
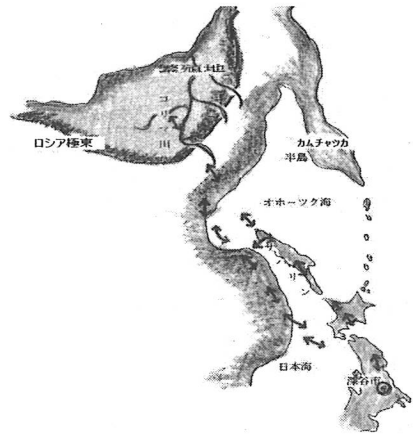
コハクチョウは、家族(親子)単位でグループを作り、このグループが集まって群れを作ります。家族はとても仲がよく、団結しています。生活は常に家族単位、渡りなど長距離の移動は群れ単位で行動します。

渡りのときは、群れのリーダーが先頭、サブリーダーが最後尾、幼鳥が親の間に入り、V字型の編隊で飛行します。長い渡りでは途中でリーダーが交代するそうです。

また、コハクチョウの夫婦は一生を共に過ごします。

(2) くちばし

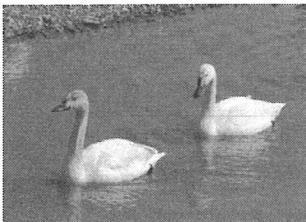
コハクチョウのくちばしの模様は、人間の指紋のように、一羽一羽違います。過去3年間の写真を比較すると、明らかに同じ白鳥が確認できます。



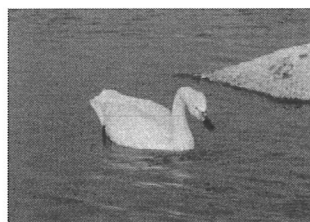
(3) 幼鳥・亜成鳥・成鳥

幼鳥は羽が灰色で、成長とともに白くなります。満一歳頃は亜成鳥と呼ばれ、見た目には成鳥と変わりません。満2歳になると立派な成鳥です。

写真は、一昨年幼鳥だった白鳥が、昨年は亜成鳥、今年には成鳥になって幼鳥を連れてきている(親鳥になった)成長の記録です。



一昨年は幼鳥(左)



昨年は亜成鳥



今年には成鳥(子連れ)

7. まとめ

(1) 考察

3年間の継続的な調査だったので、白鳥の行動パターンも予想がつくようになりました。

昨年、鳥インフルエンザの影響で、深谷市の餌付けが中止された時は、白鳥たちがかわいそうだと思います。しかし、白鳥たちは餌付けがあるから渡ってくるのではありません。各飛来地には白鳥の越冬に適した環境があり、白鳥たちはそれを求めて、シベリアから4,000kmの長い旅をしてやってくるのです。

餌付けをしなくても、白鳥が安心して越冬できる環境を守ることが大切だと思います。

(2) 反省・感想

3年間白鳥を追いかけ、今年は北海道まで行ってしまいました。行く先々で感じたことは、どこに行っても白鳥は、町のアイドルとしてみんなから大切にされていることです。どの飛来地にも、白鳥を愛する名物おじさんがいて、地域の情報をていねいに教えてくれました。時々手紙やメールで情報交換をしています。この情報網を大切にしながら、これからも白鳥観察を続けたいと思います。

何度も取材に応じてくれた白鳥おじさんの方々、白鳥のことや写真のことをいろいろ教えてくれた写真家の皆さん、データを提供してくれた深谷市観光協会と深谷市商工振興課の皆さん、写真を掲載していただいた埼玉新聞社の皆さん、各地の飛来地まで連れて行ってくれた両親に感謝します。そして、白鳥たちにお礼が言いたいです。

資料

白鳥観察ノート(過去3年分)

埼玉新聞の記事

白鳥おじさんからお借りした資

深谷市観光協会から提供されたデータ

深谷市商工振興課から提供されたデータ

NHK「地球ふしぎ大自然」白鳥ソンドラ地帯

(平成14年11月18日放送)

わたり鳥. あかね書房

四季の野鳥かんさつ. あかね書房

ハクチョウを追って. 金の星社

ハクチョウのくひはどうしてながい. 大日本図書

小学館の図鑑「鳥」. 小学館

学研の図鑑「鳥」. 学研

わたしたちのハクチョウを守ろう. 学研

吉川繁男. 瓢湖白鳥物語. 三省堂

千葉晃・本間隆平. 新潟県の野鳥. 新潟日報事業社

(写真:すべてオリジナル)

(編集者注:本文と直接関係のないと思われる写真は省略した。本文中に「シベリア」という地域名があるが、日本に渡来するコハクチョウの繁殖地は、頸環や足環、テレメータの装着で確認されている限りでは、チャウン湾などロシア極東北部で、シベリアではない。)